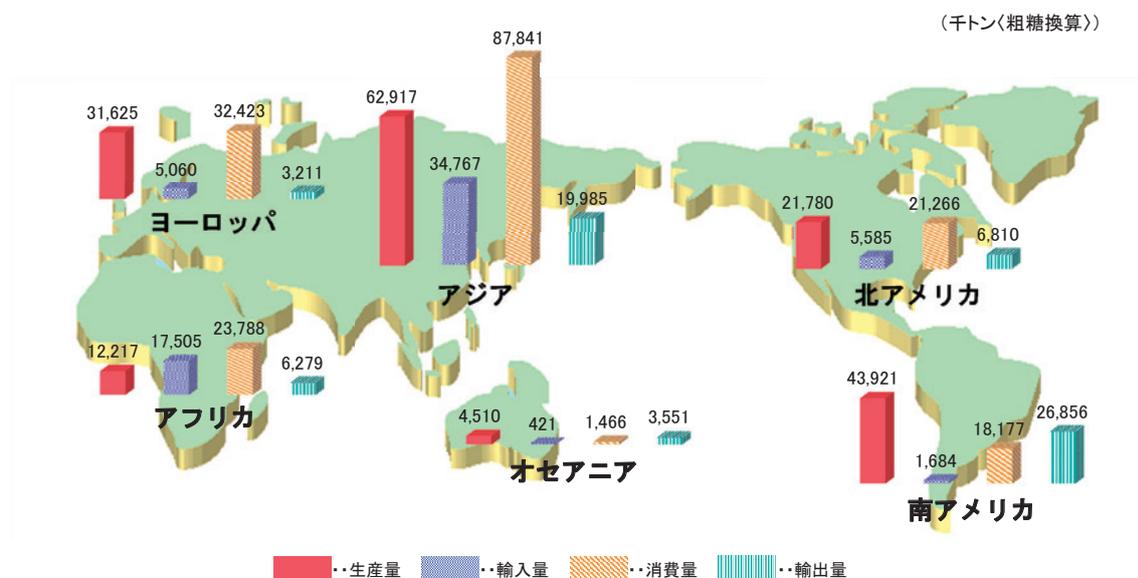


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2020年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国、英国、ロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,982	160,315	56,023	164,751	56,244	50,324	30.5
2014/15	69,085	183,717	59,707	176,762	62,081	73,666	41.7
2015/16	73,666	175,955	67,776	178,700	69,077	69,620	39.0
2016/17	69,620	180,387	70,759	181,308	71,288	68,169	37.6
2017/18	68,169	195,693	65,866	180,494	67,771	81,462	45.1
2018/19	81,462	186,733	60,662	183,711	61,492	83,654	45.5
2019/20 (2019年12月予測)	81,791	179,248	63,056	185,535	64,856	73,704	39.7
2019/20 (2020年3月予測)	83,654	176,970	65,022	184,961	66,692	73,994	40.0

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度以降は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2020年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年4月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002173.html

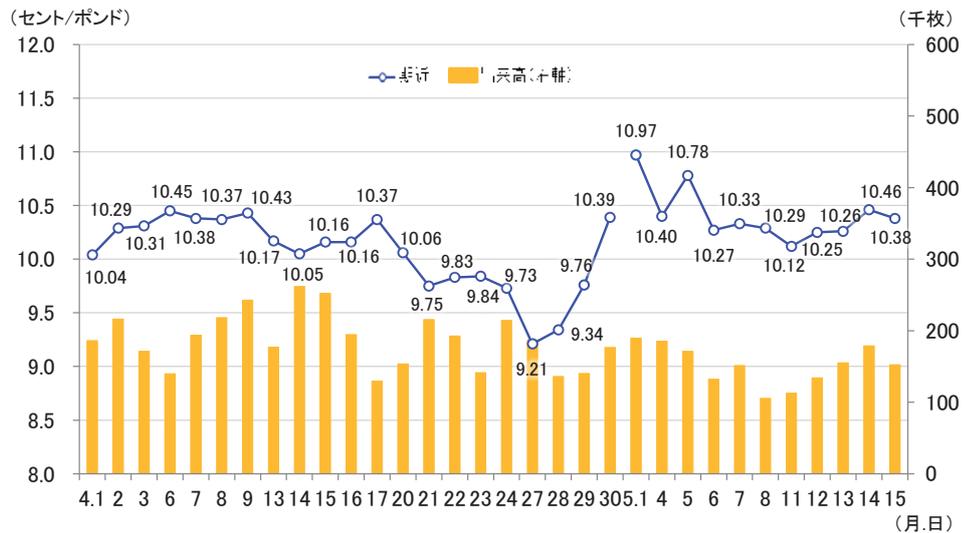
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002174.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（4/1～5/15）

～4月下旬に約13年ぶりの安値を記録、5月も低調な動き～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：4月は期近5月限、5月は期近7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年4月の推移を見ると（5月限）、1日は、原油価格の下落^{（注1）}とブラジルの通貨リアルが米ドルに対し安値で推移^{（注2）}した影響を受け、1ポンド当たり10.04セント^{（注3）}と2018年9月以来の安値水準まで値を下げた。2日は反発し、同10.29セントとなった。その後は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大を防ぐため世界各地で外出制限などの措置が実施される中、外食や行楽の機会が減少し砂糖消費が伸び悩むとの見方が重荷となり、横ばいで推移した。12日に主要産油国が協調減産に合意したが、原油価格を大きく押し上げるに至らず、13日は同10.17セントまで値を下げた。14日は、さらに値を下げ同10.05セントの値を付けたものの、その後やや持ち直す動きとなり、17日は同10.37セントと10セント半ばまで回復した。20日は、原油価格が史上初めてマイナスの値を付けたこと^{（注4）}やリアルの下落を受け再び下げに転じ同10.06セントまで値を下

げ、21日も続落し同9.75セントとなった。27日は、原油価格の下落とリアル安の進行に加え、ブラジルの砂糖生産量が増加するとの予測から急落し、同9.21セントと12年7カ月ぶりの安値を付けた。その後はリアル高や原油価格の上昇に伴い値を上げ、30日は、ブラジルの石油需要が外出制限の緩和によって回復したことも影響し、同10.39セントと10セント台に乗せた。

7月限に変わった5月1日は、原油価格の上昇とインド産砂糖の生産実績の減少を受けて、同10.97セントの値を付けた。4日は、2020/21年度の砂糖在庫が増加するとの見通しが市場関係者の間で広まったことを受け、同10.40セントまで急落したが、5日は原油価格が上昇したことで反発し、同10.78セントまで値を戻した。6日は原油価格の落ち込みとリアル安が重しとなり、同10.27セントと下落した。その後数日間は横ばいで推移したが、11日はブラジル産砂糖の増産の可能性を受けて、同10.12

セントと値下げが進行した。15日は原油価格が上昇したものの、記録的なリアル安が下げ要因となり、同10.38セントの値を付けた。

(注1) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替（補填）燃料であるバイオエタノールの需要も低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えることが想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給の緩みにつながり、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが安くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が強まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まれば、需給の緩みにつながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注4) 4月20日のNY原油先物5月限（WTI）の終値は、1バレル＝▲37.63ドル（前営業日比▲55.90ドル）となり、史上初めてマイナス価格で取引を終えた。

(参考) ブラジルレアルの為替レート

月日	レアル/米ドル	月日	レアル/米ドル
4月1日	5.2404	4月24日	5.6510
4月2日	5.2651	4月27日	5.6358
4月3日	5.2997	4月28日	5.5683
4月6日	5.2471	4月29日	5.4291
4月7日	5.2217	4月30日	5.4270
4月8日	5.2123	5月4日	5.5816
4月9日	5.0779	5月5日	5.5354
4月13日	5.1824	5月6日	5.6676
4月14日	5.1858	5月7日	5.8365
4月15日	5.2579	5月8日	5.7653
4月16日	5.2377	5月11日	5.7954
4月17日	5.2573	5月12日	5.7723
4月20日	5.2837	5月13日	5.9022
4月22日	5.3847	5月14日	5.9372
4月23日	5.4467	5月15日	5.8229

資料：ブラジル中央銀行

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年5月時点予測）

本稿中の為替レートは2020年4月末日TTS相場の値であり、1インド・ルピー＝1.58円、1米ドル＝108（107.87）円である。

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：859万ha（前年度同）

生産量：6億5100万トン（前年度比1.6%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：4196万トン（同31.9%増）

輸出量：3225万トン（同59.1%増）

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に増加する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年5月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21年度（4月～翌3月）のサ

トウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要も不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、859万ヘクタール（前

年度同)と横ばいで推移すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億5100万トン(前年度比1.6%増)とわずかに増加すると見込まれる。

バイオエタノール需要の減退懸念などを受け、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、砂糖生産量は4196万トン(粗糖換算(以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同31.9%増)と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジルの通貨リアルが米ドルに対して安値圏で推移することで、輸出意欲を刺激することとも相まって、輸出量は3225万トン(同59.1%増)と大幅に増加すると見込まれる。

サトウキビの製糖への仕向け割合、2019/20年度は過去最低水準に

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)は4月23日、2020年3月末で終了した2019/20年度(4月~翌3月)第4回サトウキビ生産状況等調査結果を公表した^(注)。これによると、サトウキビの収穫

面積は、砂糖の国際価格の低迷を受けて他作物への転作が行われたことで844万ヘクタール(前年度比1.7%減)とわずかに減少するものの、天候に恵まれ、単収が前年度から増加したことで、サトウキビ生産量は6億4272万トン(同3.6%増)とやや増加すると見込まれる。また、サトウキビの品質が良好であったことを受け、1トン当たりの回収糖分(ATR)が前年度と比べて増加し、砂糖生産量は2980万トン(同2.6%増)とわずかに増加する見込みである。

同年度におけるサトウキビ由来のバイオエタノール生産量は過去最高の340億リットル(同5.1%増)と見込まれており、前年度より多くのサトウキビがバイオエタノール生産に仕向けられることで、サトウキビの製糖への仕向け割合は34.9%(同0.6ポイント減)と、記録の残る2005/06年度以来最も低くなると予測される。

(注) 同調査は、同年度におけるサトウキビ、砂糖およびエタノールの生産予測を四半期ごとに公表するものである。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

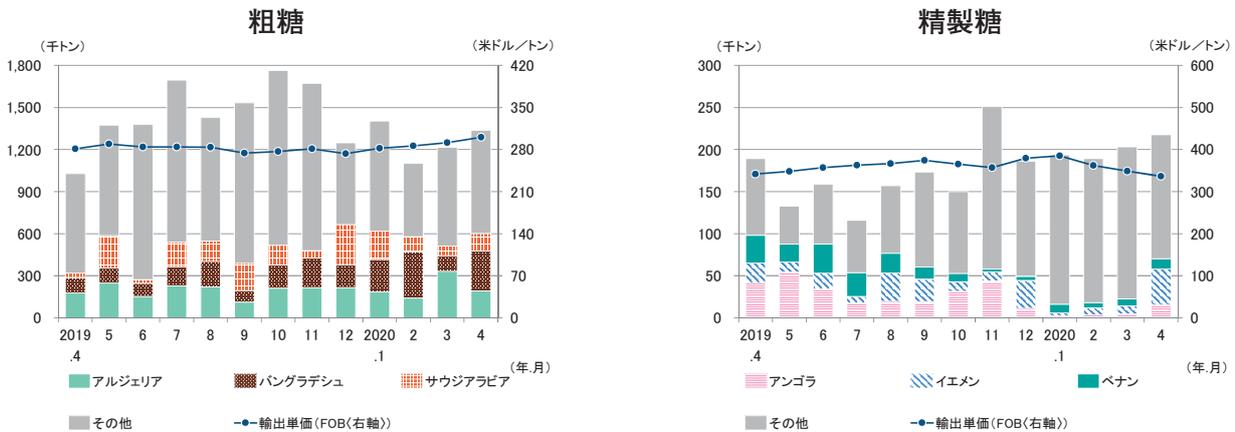
(単位:千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	2020/21 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,617	8,649	8,587	8,510	8,587	0.0	
サトウキビ生産量	641,066	620,825	641,003	651,000	651,000	1.6	
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,815	41,958	41,958	31.9
	輸入量	2	3	3	3	3	0.0
	消費量	10,852	10,635	10,610	10,479	10,353	▲2.4
	輸出量	31,026	21,017	20,275	32,125	32,250	59.1
	期末在庫量	663	239	1,172	380	529	▲54.8
	期末在庫率	1.6	0.8	3.8	0.9	1.2	2.6ポイント減

資料: LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2020」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

〈お詫びと訂正〉

2020年5月号の「砂糖の国際需給－3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年4月時点予測）－」のブラジルの項の冒頭の「2020/21年度（4月～翌3月）の見通し」につきまして、誤植がありました。お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

【正】生産量：6億5100万トン（同1.5%増）

【誤】生産量：6億5110万トン（同1.5%増）

インド

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：461万ha（前年度比10.5%減）

生産量：3億6277万トン（同11.8%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2911万トン（同18.7%減）

輸出量：580万トン（同5.5%増）

2019/20年度、砂糖生産量は減少するものの、輸出量は増加する見込み

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した豪雨による大規模な圃場の浸水被害^{ほしゅう}などが影響し、2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は461万ヘクタール（前年度比10.5%減）とかなりの程度減少し、サトウキビ生産量は3億6277万トン（同11.8%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表3）。

サトウキビの減産や生育不良によってサトウキビ

の糖度が低下した影響で、砂糖生産量は2911万トン（同18.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。生産量は前月から上方修正されたものの、下記の通り国内市場に販売できる砂糖の数量が削減され、インド政府による輸出促進政策（同政府は2019/20年度に「砂糖輸出量600万トン」の目標を設定）達成への動きが見られることから、輸出量は580万トン（同5.5%増）と前月の減少予測から一転して増加すると見込まれている。

砂糖需要の減少を受け、5月の砂糖の販売割当数量を削減

インド消費者問題・食料・公共配給省は4月29日、国内の製糖工場545工場に対する5月分の砂糖の販売割当数量（以下「割当数量」という）を合計170万トンとしたと発表した^(注)。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大を防ぐための全国的な都市封鎖により、国内の砂糖需要が減少していることを受けて、5月の割当数量は前年同月から40万トン、前月から10万トン削減された。

現地報道によると、菓子や飲料などの食品メーカーが都市封鎖によって工場の操業を停止していることから、砂糖の需要が少なくとも100万トンは減少すると予測されている。製糖業者は砂糖の販売に苦戦を強いられているため、同省は4月の割当数量を5月に繰り越すことを特例で認めるとも発表した。

(注) 砂糖の過剰在庫を抱えるインドでは、供給過多による値崩れを防止するため、国内市場に販売できる砂糖（貧困層向けに低価格で配給される砂糖以外の砂糖）の量は、同省の命令に基づき月ごとに上限が設けられている。

インドネシアへ粗糖20万トン、精製糖15万トンを輸出か

現地報道によると、インドの輸出業者は4月下旬、インドネシアへ粗糖20万トン、精製糖15万トンをそれぞれ輸出する契約を締結したとしている。現状、インド国内のほとんどの港は、COVID-19による都市封鎖によって本格的に機能していないことから、同国西部のムンドラ港のみで船積みされ、5月15日～20日にインドネシアに到着するとみられる。関係者によると、粗糖の契約金額は1キログラム当たり20.7～21.0ルピー（32.7～33.2円〈FOB価格^(注)〉）、精製糖は、1トン当たり335～340ドル（3万6180～3万6720円〈同〉）としている。

現在、インドの主な砂糖輸出先は、インドネシアとイランに限られている。これは、スリランカやアフガニスタン、シンガポールからの需要もあるものの、各国で実施されている都市封鎖の影響で物流が停滞し、輸出できない状況にあるためとされる。通常、インドネシアは主にタイから砂糖を輸入しているが、タイの砂糖生産量が干ばつの影響で大幅に減少したため、今回の契約で砂糖需要を賄おうとしているとみられる。

(注) 輸出国における船積み価格。

表3 インドの砂糖需給の推移

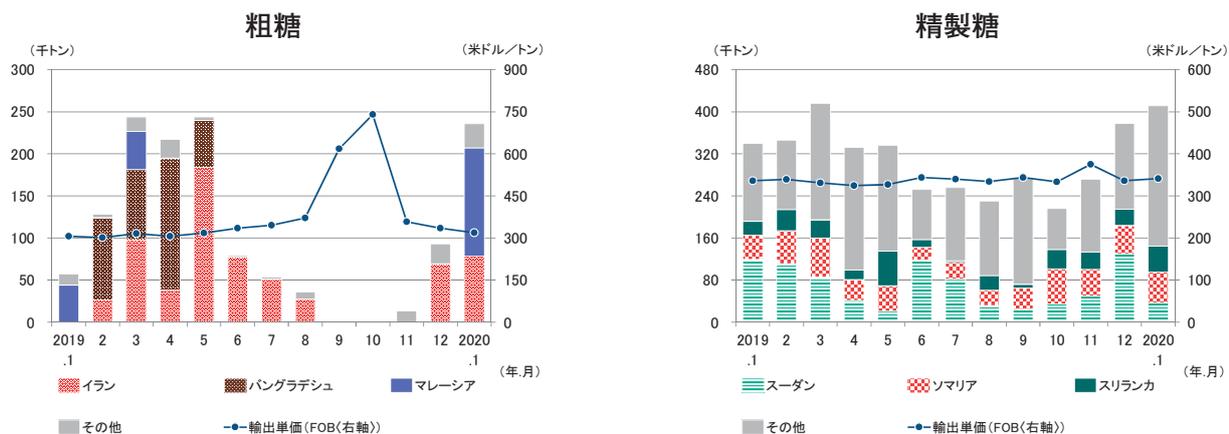
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	2019/20 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,826	5,148	4,606	4,606	▲ 10.5	
サトウキビ生産量	323,556	410,221	411,316	359,365	362,769	▲ 11.8	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,798	28,790	29,113	▲ 18.7
	輸入量	2,536	2,308	664	850	850	28.1
	消費量	26,568	27,232	27,537	27,186	26,221	▲ 4.8
	輸出量	2,233	2,361	5,504	5,474	5,804	5.5
	期末在庫量	3,952	11,711	15,133	12,094	13,071	▲ 13.6
	期末在庫率	13.7	39.6	45.8	37.0	40.8	5.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量 (累計) 上位3カ国を表示。

中国

2019/20年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 118万ha (前年度比3.5%減)

生産量: 7769万トン (同1.1%減)

【てん菜】

収穫面積: 21万ha (同12.4%減)

生産量: 1090万トン (同6.6%減)

【砂糖 (甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量: 1094万トン (同6.1%減)

輸入量: 591万トン (同21.9%増)

2019/20年度、輸入量は大幅に増加する見込み

2019/20年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール (前年度比3.5%減) とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン (同1.1%減) とわずかに減少すると見込まれる (表4)。てん菜の主産地である内モンゴル自治区でヨトウムシなどによる害虫被害が発生したことから、てん菜の収穫面積は21万ヘクタール (同12.4%減) とかなり大きく減少すると見込まれる。生育期間を通じておおむね天候に恵まれ、てん菜の根中糖分は前年度を上回って推移しているものの、収穫面積の減少分を補うに至らず、てん菜生産量は1090万トン (同6.6%減) とかな

りの程度減少すると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1094万トン (同6.1%減) とかなりの程度減少し、輸入量は591万トン (同21.9%増) と大幅に増加すると見込まれる。

中国糖業協会、4月の砂糖生産量を公表

中国糖業協会は5月9日、4月の砂糖生産量を公表した。てん菜糖の生産は2月に終了しているため、4月に生産された砂糖はすべて甘しゃ糖である。2019/20年度は例年よりも早期に压榨が開始された影響で、工場の操業停止の時期も早まり、4月の生産量は40万トン (精製糖換算) と、前月から59.7%、前年同月から49.3%減少した。

2019年10月から翌4月までの砂糖生産量の累計は、前年同期比4.4%減の1021万トンとやや減少した。種類別に見ると、甘しゃ糖生産量は同

5.9%減の882万トン、てん菜糖生産量は同5.9%増の139万トンであった。

同協会によると、5月上旬の時点で、雲南省を除くすべての製糖工場の压榨が終了している。

表4 中国の砂糖需給の推移

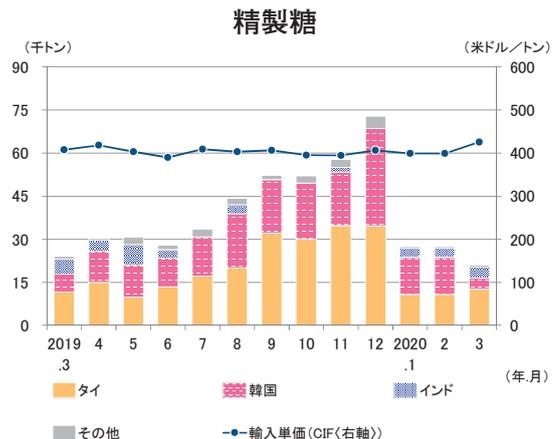
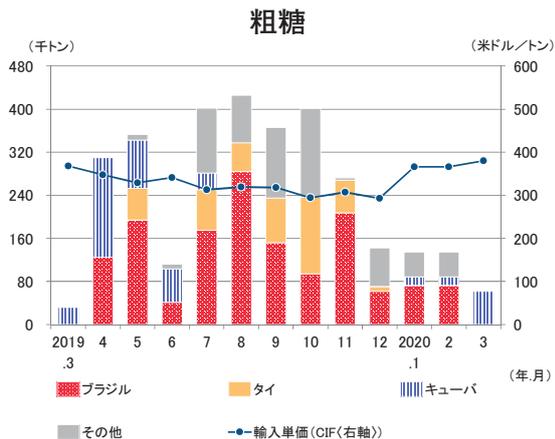
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	2019/20 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5	
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	77,690	77,690	▲ 1.1	
てん菜収穫面積	168	186	243	213	213	▲ 12.4	
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6	
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	11,033	▲ 6.1	
	輸入量	5,715	6,089	4,851	4,488	21.9	
	消費量	16,847	16,414	16,522	15,822	▲ 5.2	
	輸出量	146	182	210	196	▲ 6.8	
	期末在庫量	10,689	11,329	11,088	10,567	12,083	9.0
	期末在庫率	62.9	68.3	66.3	66.0	76.2	10.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U・英国

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：162万ha(前年度比5.4%減)

生産量：1億1465万トン(同3.3%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1823万トン(同0.2%減)

輸出量：120万トン(同36.9%減)

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は162万ヘクタール(前年度比5.4%減)とやや減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産量は、

深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1465万トン(同3.3%増)とやや増加すると見込まれる。

平年より高温・乾燥した状況が続いたEU最大の

砂糖生産国フランスにおけるてん菜の根中糖分の低下などが響き、砂糖生産量は1823万トン（同0.2%減）と横ばいで推移すると見込まれる。輸出量は前月予測から上方修正されたものの、生産量が消費量を下回ると予想されることから、120万トン（同36.9%減）と大幅に減少すると見込まれる。

欧州委員会、砂糖の短期的需給見通しを公表

欧州委員会が4月20日に発表した砂糖の短期的需給見通しによると、EUおよび英国における2019/20年度の砂糖生産量は、てん菜作付面積の減少が影響し、1740万トン（前年度比1.5%減、精製糖換算）と見込まれる。砂糖消費量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止を目的とした都市封鎖の影響で家庭での消費が増えた一方、外食産業の需要が低下し、全体的には前年度からわずかに減少すると見込まれる。砂糖輸出量は、砂糖の減産や砂糖の国際価格の低迷による影響で110万トン（同31.7%減）、輸入量は200万トン（同6.7%増）と見込まれ、都市封鎖による物流の停滞が貿易活動に影響するとみている。

10月から始まる2020/21年度のてん菜作付面積は、ここ2年間のてん菜価格の低迷を受けて、前年度から3%減少すると見込まれる。各国の動向を見ると、ベルギー、ドイツ、フランスで面積の縮小が見込まれる一方、ポーランドでは面積が維持され、

オランダでは増加すると予測されている。

ネオニコチノイド系農薬のチアクロプリド、4月30日をもって農薬登録が期限切れに

てん菜の黄化症状を引き起こす害虫を防除するために使用されるネオニコチノイド系農薬^(注)の一種チアクロプリドは4月30日をもって、EUでの農薬登録が期限切れとなった。同農薬は、2019年3月に欧州食品安全機関（EFSA）において自然環境などに影響を及ぼす可能性があるとして報告されていた。これを受け、欧州委員会は2020年1月13日、4月末に期限が切れる同農薬の登録期間を更新しないと発表していた。

チアクロプリドの登録が失効したことで、2018年6月に屋外での使用が禁止されたクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムと合わせて、4種類のネオニコチノイド系農薬が禁止されたことになる。

欧州てん菜生産者連盟（CIBE）は5月11日、同等の効果を持つ代替農薬がない中で、あまりにも早急に規制が進むと、てん菜生産者は害虫による被害を克服できなくなると懸念を表明した。

(注) ニコチンに似た化学構造を有する各種薬剤の総称で、根から吸収され植物全体に浸透する特性から、種子にコーティングしたり、種子をまく溝の中に散布したりするなどの方法で施用される。日本においては、ネオニコチノイド系農薬の使用に関する規制はない。

表5 EU・英国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

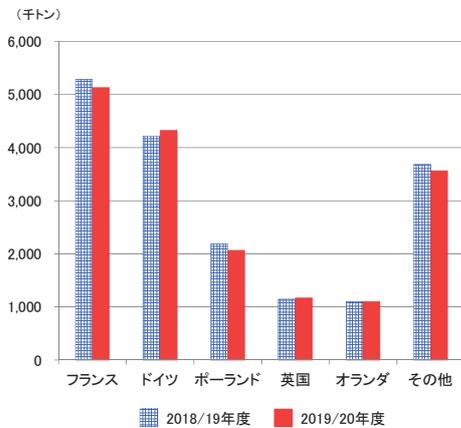
年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	2019/20 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,731	1,709	1,615	1,616	▲ 5.4	
てん菜生産量	107,986	139,453	111,028	114,585	114,646	3.3	
砂糖	生産量	17,069	21,734	18,258	18,206	▲ 0.2	
	輸入量	3,117	1,731	2,521	2,664	▲ 2.8	
	消費量	19,177	19,143	19,393	18,990	▲ 2.7	
	輸出量	1,510	3,809	1,895	1,033	▲ 36.9	
	期末在庫量	1,986	2,499	1,990	2,713	2,599	30.6
	期末在庫率	9.6	10.9	9.3	13.5	13.0	3.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

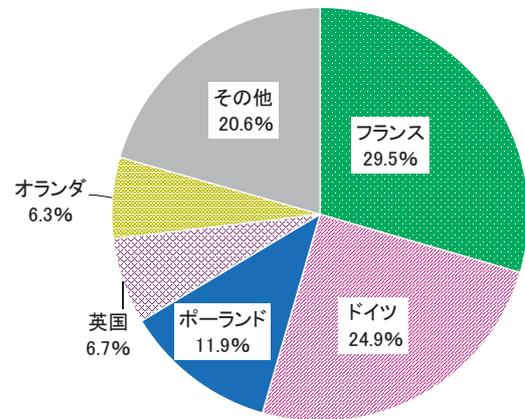
(参考) EU・英国の砂糖生産見通しおよび生産割合 (2020年5月時点)

EU・英国の砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2020年5月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、南アフリカおよびフィリピンの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（南アフリカは3月号および10月号、フィリピンは4月号および9月号を予定）。

本稿中の為替レートは2020年4月末日TTS相場の値であり、1インドネシア・ルピア=0.0082円である。

豪州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）
生産量：3200万トン（同6.5%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：449万トン（同4.7%増）
輸出量：328万トン（同1.4%減）

2020/21年度、砂糖生産量はやや増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウ

キビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3200万トン（同6.5%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上

げ要因となり、449万トン（同4.7%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖の国際価格が低迷していることを受けて、輸出量は328万トン（同1.4%減）とわずかに減少すると見込まれる。

インドネシアとの包括的経済連携協定、7月に発効

豪州貿易観光投資省は5月7日、インドネシア商業省は翌日の5月8日、豪州とインドネシア間の包括的経済連携協定（IA-CEPA）が2020年7月5日から正式に発効することを発表した。同協定の発効に伴い、豪州からインドネシアへの輸出については99%以上の品目で関税撤廃か大幅削減となるほか、豪州産砂糖の輸入関税は最大約12%（従価税換算）^{（注）}から5%に引き下げられる。両国の担当大臣は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）終息後の経済回復に同協定が役立つことを期待しているという。

インドネシアの主な粗糖輸入先国はタイと豪州で、Global Trade Atlasによると、2019年にインドネシアが輸入した粗糖のうち86%がタイ産で、残りの14%は豪州産であった。同協定の発効によって豪州産粗糖の関税率はタイ産に並ぶため、両国の競合は今後さらに激しくなるとみられる。

（注）同協定発効前の粗糖の関税率は1キログラム当たり550ルピア（4.5円）、精製糖の関税率は同790ルピア（6.5円）。

ツマジロクサヨトウ、豪州内で生息地域を拡大

サトウキビやトウモロコシなど多くの種類の作物を食害するツマジロクサヨトウは、2020年2月に豪州本土への侵入が初めて確認されて以降、生息地域が拡大しつつある。現地報道によると、ツマジロクサヨトウは2020年1月、豪州の北端であるヨーク岬とパプアニューギニアとの間に位置するトレス

海峡諸島で初めて確認されて間もなく、2月にヨーク岬付近のバマガで発見されるに至った（図3）。その後は徐々にクイーンズランド（QLD）州の生息地域を南に拡大させ、4月には同州で最もサトウキビ生産量が多いバーデキン地方で、直近ではマツカイなどの中央部でも発見された。豪州砂糖研究センター（SRA）によると、サトウキビの圃場での被害はまだ報告されていない。

豪州農薬・動物医薬品局（APVMA）は2020年3月18日から2023年3月末の間、ツマジロクサヨトウの防除に効果的な殺虫剤とされるペルメトリンの緊急使用を同州とニューサウスウェールズ州で許可した。また、QLD州農業水産省（DAF）は主要な農業地域の調査を継続しており、圃場でツマジロクサヨトウを見つけた場合はDAFに連絡するよう農家に呼び掛けている。

（注）台湾におけるツマジロクサヨトウ防除については、本誌海外情報「台湾におけるツマジロクサヨトウ防除の現況」を参照されたい。

図3 豪州におけるツマジロクサヨトウの発生状況



資料：Business Queensland（<https://www.business.qld.gov.au/industries/farms-fishing-forestry/agriculture/crop-growing/fall-armyworm/detections>）（2020/5/14アクセス）を基に農畜産業振興機構作成

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	2020/21 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	376	379	364	361	361	▲ 1.0
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	30,901	32,000	6.5
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,283	4,328	4.7
	輸入量	27	18	20	58	190.0
	消費量	1,019	1,050	1,071	1,064	4.3
	輸出量	3,590	3,562	3,329	3,324	▲ 1.4
	期末在庫量	849	972	875	891	16.5
	期末在庫率	18.4	21.1	19.9	20.3	23.2

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

〈お詫びと訂正〉

2020年3月号の「砂糖の国際需給－4. 日本の主要輸入先国の動向（2020年2月時点予測）－」の豪州の項の「IA-CEPAの批准により、豪州産糖の関税は削減へ」につきましては、誤りがありました。お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

【正】 1インドネシア・ルピア=0.0092円

[p.16 (注)] 同協定発効前の粗糖の関税率は1キログラム当たり550ルピア（5.1円）、精製糖の関税率は同790ルピア（7.3円）。

【誤】 1インドネシア・ルピア=0.92円

[p.16 (注)] 同協定発効前の粗糖の関税率は1キログラム当たり550ルピア（506円）、精製糖の関税率は同790ルピア（727円）。

タイ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：156万ha（前年度比15.0%減）

生産量：7500万トン（同42.7%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：878万トン（同43.2%減）

輸出量：860万トン（同14.9%減）

2019/20年度、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物への転作が活発化したことで、156万ヘクタール（前年度比15.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。加えて、2019年初頭の降雨量が少なく、サトウキビの生育が停滞していることから、

サトウキビ生産量は7500万トン（同42.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は878万トン（同43.2%減）と大幅に減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い、輸出量は860万トン（同14.9%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

パラコートおよびクロルピリホス、6月1日から使用禁止へ

現地報道によると、タイ政府の国家有害物質委員会（NHSC）は4月30日、パラコートおよびクロルピリホスは2020年6月1日から使用禁止、グリホサートは5月23日から使用を大幅に制限することを決定した。これらの農薬は当初、2019年12月1日から使用が禁止または制限される予定であったが、生産者や農業団体などから「これらに代わる安価な代替品が存在しない」「農薬が使用できな

ければ農産物の生産や輸出に影響が出る」と反発する声が高まり、禁止・制限の時期の変更を余儀なくされた経緯がある。

農業団体は、規制の開始時期を2021年初まで再延長するよう訴えていたが、要請が退けられる結果となり、政府の決定に対して不満がくすぶっている。

（注）経緯の詳細は、2019年12月4日付海外情報「タイ政府、グリホサートの禁止決定をわずか1カ月で撤回」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002562.html）を参照されたい。

表7 タイの砂糖需給の推移

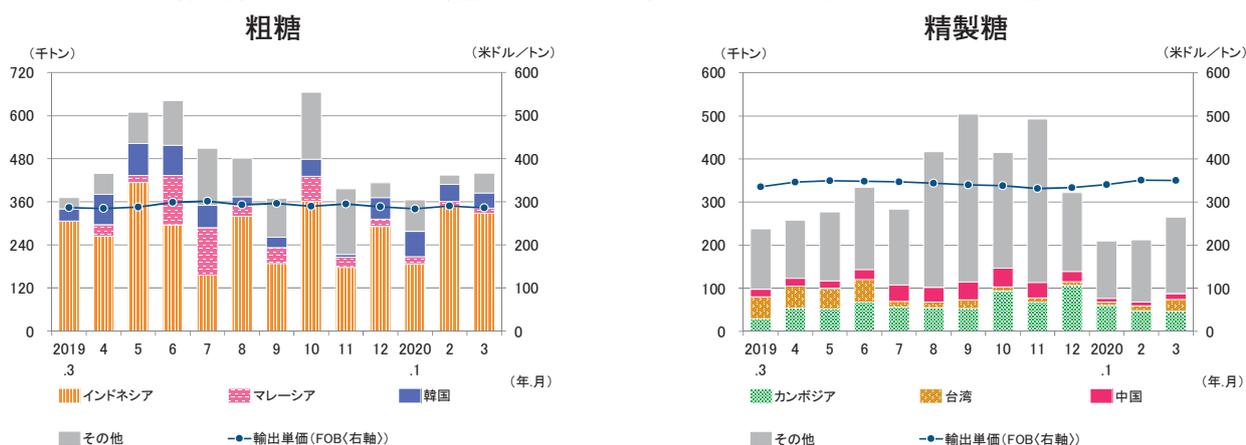
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	2019/20 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,790	1,835	1,560	1,560	▲ 15.0	
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	75,000	75,000	▲ 42.7	
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	8,793	8,781	▲ 43.2
	輸入量	0	5	3	3	3	▲ 3.3
	消費量	3,283	3,434	3,737	3,766	3,610	▲ 3.4
	輸出量	7,393	9,820	10,113	8,556	8,603	▲ 14.9
	期末在庫量	3,951	6,289	7,899	3,876	4,470	▲ 43.4
	期末在庫率	37.0	47.4	57.0	31.5	36.6	20.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考） タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。